

# 令和元年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第4条に定める事業を実施している。

令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより次に掲げる事業を実施した。

## 1. 定款第4条に定める公益目的事業

助成事業（公1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

## 2. 令和元年度公益目的事業

助成事業及び国内褒賞事業については、平成30年度第2回理事会（平成30年12月5日）において承認された内容に基づき実施した。

平成30年度調査研究助成3件のうち1件が研究者の海外留学により研究継続が困難なことから今後の助成を辞退したため、助成は1年間で終了した。

会議・シンポジウム助成のうち1件が新型コロナウイルスの感染状況を鑑み急遽開催を中止したが、既に開催準備を進めていたため助成金から一部を費用計上した旨の会計報告があった。

令和元年度（第12回）糖尿病療養指導鈴木万平賞表彰式並びに記念パーティーを令和元年10月11日に霞山会館（千代田区）において開催した。

国際褒賞事業については、令和元年7月24日開催の国際褒賞審査委員会で令和元年度（第12回）鈴木万平記念糖尿病国際賞の受賞候補者1名が選出され、令和元年度第2回理事会（令和元年12月9日）において承認された。

本賞の表彰式・記念講演会並びに記念パーティーを令和2年3月4日に経団連会館（千代田区）において開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み中止した。

## 令和元年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 容
<b>助成事業</b>		
海外留学助成 1.	24,000,000 円	令和元年度新規 (@400万円×6名)
同 上 2.	16,000,000 円	平成30年度継続 (@400万円×4名)
外国人研究者招聘助成	0 円	@100万円×0件
会議・シンポジウム助成	5,000,000 円	@100万円×5件
調査研究助成 1.	5,000,000 円	令和元年度新規 (@250万円×2件)
	600,000 円	〃 (@60万円×1件)
同 上 2.	5,000,000 円	平成30年度継続 (@250万円×2件)
同 上 3.	5,000,000 円	平成29年度継続 (@250万円×2件)
事業推進費	242,400 円	募集関連費用
小 計	60,842,400 円	
選考委員会・面接選考	1,829,163 円	開催関連費用
合 計	62,671,563 円	
<b>褒賞事業（国内褒賞）</b>		
第12回糖尿病療養指導鈴木万平賞	6,196,560 円	正賞楯・副賞、記念品
	1,180,438 円	表彰式関連費用
事業推進費	761,600 円	募集関連費用
小 計	8,138,598 円	
第13回国内褒賞審査委員会	961,332 円	開催関連費用
合 計	9,099,930 円	
<b>褒賞事業（国際褒賞）</b>		
第12回鈴木万平記念糖尿病国際賞	16,704,000 円	正賞楯・副賞、記念品
	1,687,584 円	表彰式関連費用
事業推進費	2,750,732 円	募集関連費用
業務委託費	3,240,000 円	
小 計	24,382,316 円	
第12回国際褒賞審査委員会	2,762,840 円	開催関係費用
合 計	27,145,156 円	
総 計	98,916,649 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

## 附属明細書

### 1) 助成事業

#### 海外留学助成 - 1 (令和元年度新規分 6名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p style="text-align: center;">みせ こうき 三瀬 広記</p> <p>岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌 代謝内科学</p>	<p>研究課題： 糖尿病腎症におけるミトコンドリア機能制御</p> <p>研究項目： 糖尿病腎症における Dynamin related protein (Drp1) のミトコンドリアダイナミクス制御に関する研究～トランスジェニックマウスを用いた Drp1 Ser600 リン酸化の全身・腎臓への影響の検討と Drp1 Ser600 リン酸化によるミトコンドリア機能障害に関与する相互作用蛋白の同定～</p> <p>研究機関： The University of Texas MD Anderson Cancer Center</p> <p>研究指導者： Professor Farhad R. Danesh</p> <p>助成期間： 自 令和元年6月 至 令和3年5月 (2年間)</p>
<p style="text-align: center;">さとう まきひろ 佐藤 真洋</p> <p>千葉大学大学院 医学研究院 循環器内科学</p>	<p>研究課題： 末梢血 1 細胞解析を用いた糖尿病性心筋症診断ツールの開発</p> <p>研究項目： 糖尿病は心不全の危険因子だが、無症候段階での心不全発症リスクは把握できない。心不全初期は炎症反応に伴い免疫細胞プロファイルが変化する。本研究は糖尿病性心筋症患者の末梢血免疫細胞変化を 1 細胞解析技術で検出、Big Data と統合し早期診断を可能とする事を目的とする。</p> <p>研究機関： Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Chief of Cardiovascular Medicine Calum A. MacRae</p> <p>助成期間： 自 平成 31 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 (2年間)</p>
<p style="text-align: center;">いだ しょうご 井田 昌吾</p> <p>滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病内分泌・ 腎臓内科</p>	<p>研究課題： ヒト ES 細胞を用いた新規膵島移植治療法の開発</p> <p>研究項目： 膵前駆細胞まで分化させたヒト ES 細胞を直接または micro-encapsulation device という特殊なカプセルを用いて種々の部位に移植し、治療効果や分化への影響を検討する。</p> <p>研究機関： The University of British Columbia</p> <p>研究指導者： Professor Timothy J. Kieffer</p> <p>助成期間： 自 平成 31 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 (2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
わたなべ ひとし <b>渡邊 一史</b> 金沢大学 新学術創成研究機構	研究課題： 糖尿病における膵臓β細胞脱分化メカニズムの解明 研究項目： 2型糖尿病患者では、膵β細胞数が減少するが、その詳細なメカニズムは不明な点が多い。本研究では、ミトコンドリア機能に関与する Cyb5r3 のβ細胞脱分化における重要性を明らかにする。β細胞脱分化メカニズムの解明は、β細胞数の維持を目的とした新規糖尿病治療の開発に繋がる。 研究機関： Columbia University 研究指導者： Professor Domenico Accili 助成期間： 自 令和元年7月 至 令和3年6月（2年間）
さくま いっき <b>佐久間 一基</b> 千葉大学大学院 医学研究院 細胞治療内科学	研究課題： 鉄代謝制御を介した肝臓におけるインスリン抵抗性の分子機構の解明 研究項目： 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態における p53-FDXR の活性化による鉄代謝制御を介した肝臓におけるインスリン抵抗性の分子機構の解明 研究機関： Yale University 研究指導者： Professor Gerald I. Shulman 助成期間： 自 令和元年9月 至 令和3年8月（2年間）
ごとう そう <b>後藤 聡</b> 大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経感覚器外科 （眼科学教室）	研究課題： 近視による糖尿病網脈絡膜症の進行抑制機序の解明 研究項目： 近視が糖尿病網脈絡膜症を抑制すると報告されているが、病態メカニズムの解明には至っていない。糖尿病網膜症モデルマウスを用いて、近視モデルを誘導し網膜・脈絡膜の解析から病態解明を目指す。 研究機関： University of California Berkeley's School of Optometry 研究指導者： Professor in Optometry & Vision Science Christine Wildsoet 助成期間： 自 令和元年6月 至 令和3年5月（2年間）

#### 海外留学助成 - 2（平成30年度継続分 4名）

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
おぐり やすお <b>小栗 靖生</b> 京都大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌・ 栄養内科学	研究課題： 糖代謝制御臓器としての褐色脂肪組織の役割の解明および臨床応用に向けた基盤構築 研究項目： 糖代謝能に影響を及ぼす褐色脂肪由来因子の同定および機能解析 研究機関： University of California, San Francisco 研究指導者： Associate Professor Shingo Kajimura 助成期間： 自 平成30年4月 至 令和2年3月（2年間）

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
とみた ようへい 富田 洋平 慶応義塾大学医学部 眼科学教室	研究課題： FGF21 に着目した糖尿病網膜症病態機序の解明 研究項目： 糖尿病網膜症と脂質代謝 研究機関： Harvard Medical School, Boston Children's Hospital 研究指導者： Professor Lois Smith 助成期間： 自 平成 30 年 4 月 至 令和 2 年 3 月 (2 年間)
くわばら れい 栗原 玲 京都大学大学院 工学研究科 高分子化学	研究課題： 免疫抑制剤を用いない皮下への膵島移植の実現 研究項目： 膵島移植、再生医療、医用高分子 研究機関： The University Medical Center Groningen 研究指導者： Professor Paul de Vos 助成期間： 自 平成 30 年 6 月 至 令和 2 年 5 月 (2 年間)
きかもと けんいち 坂本 憲一 千葉大学大学院 医学研究院 総合医科学講座	研究課題： 臓器間神経ネットワークに着目した糖尿病、肥満状態におけるサルコペニア増悪機序の解明 研究項目： 糖尿病、肥満、サルコペニア、臓器連関 研究機関： Icahn School of Medicine at Mount Sinai 研究指導者： Professor Christoph Buettner 助成期間： 自 平成 30 年 5 月 至 令和 2 年 4 月 (2 年間)

#### 外国人研究者招聘助成（令和元年度 0 件）

なし

#### 会議・シンポジウム助成（令和元年度 5 件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数	主催機関
第 31 回日本糖尿病性腎症研究会 令和元年 11 月 30 日～12 月 1 日 岡山コンベンションセンター (岡山市)	岡山大学 学長 まきの ひろふみ 槇野 博史	357 名	日本糖尿病性腎症研究会
第 47 回日本膵・膵島移植研究会 令和 2 年 3 月 6 日～7 日 電気ビルみらいホール (福岡市) <b>【開催中止、一部返金は令和 2 年度決算へ】</b>	福岡大学医学部 再生・移植医学講座 教授 こだま しょうた 小玉 正太	—	日本膵・膵島移植研究会

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数	主催機関
第34回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 令和2年1月31日～2月1日 高崎シティギャラリー（高崎市）	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授 寺内 康夫 てらうち やすお	200名	日本糖尿病・肥満動物学会
第35回日本糖尿病・妊娠学会 年次学術集会 令和元年11月22日～23日 浅草ビューホテル（台東区）	東京女子医科大学 東医療センター小児科 部長 杉原 茂孝 すぎはら しげたか	771名	日本糖尿病・妊娠学会
第17回1型糖尿病研究会 〔第19回日本先進糖尿病治療 研究会と合同開催〕 令和元年11月2日～3日 海運クラブ（千代田区）	東京女子医科大学 糖尿病センター 講師 三浦 順之助 みうら じゅんのすけ	241名	1型糖尿病研究会

### 調査研究助成 - 1（令和元年度新規分 3件）

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
順天堂大学大学院 教授 綿田 裕孝 わただ ひろたか	研究課題： 血糖変動と心血管イベント発症の関連性を検討する前向き観察研究 助成期間： 自 平成31年4月 至 令和4年3月（3年間） 助成金額： 1年目：250万円 2年目：250万円 3年目：250万円
北海道大学大学院 医学研究院 准教授 森川 守 もりかわ まもる	研究課題： I. 糖尿病合併妊娠ならびに妊娠糖尿病における内服治療に関する 全国調査（後方視的検討） II. 肥満女性に対する減量手術後妊娠におけるGDM発症に関する 全国調査（後方視的検討） 助成期間： 自 平成31年5月 至 令和3年3月（2年間） 助成金額： 1年目：60万円 2年目：40万円
東京大学大学院 医学系研究科 特任教授 門脇 孝 かどわき たかし	研究課題： 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に 及ぼす長期的な影響の検討 助成期間： 自 平成31年4月 至 令和4年3月（3年間） 助成金額： 1年目：250万円 2年目：250万円 3年目：250万円

調査研究助成 - 2 (平成 30 年度継続分 2 件)

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
東京大学医科学 研究所 准教授 ひらた よしひろ 平田 喜裕	研 究 課 題： 糖尿病関連消化器癌の細菌叢に関する包括的検討  助 成 期 間： 自 平成 30 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： 1 年目：250 万円 2 年目：250 万円 3 年目：250 万円
関西電力医学研究所 部長 くわた ひとし 桑田 仁司	研 究 課 題： アジア・オセアニア地域における糖尿病患者の病態と栄養摂取に関する国際共同調査研究  助 成 期 間： 自 平成 30 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： 1 年目：250 万円 2 年目：250 万円 3 年目：250 万円

調査研究助成 - 3 (平成 29 年度継続分 2 件)

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
近畿大学医学部 講師 のうそう しんすけ 能宗 伸輔	研 究 課 題： 1 型糖尿病の病型診断およびβ細胞破壊の新規バイオマーカーの同定と臨床応用  助 成 期 間： 自 平成 29 年 4 月 至 令和 2 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： 1 年目：250 万円 2 年目：250 万円 3 年目：250 万円
国立成育医療研究 センター 医長 あらた なおこ 荒田 尚子	研 究 課 題： 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に 関する登録データベース構築による多施設前向き研究  助 成 期 間： 自 平成 29 年 4 月 至 令和 2 年 3 月 (3 年間) 助 成 金 額： 1 年目：250 万円 2 年目：250 万円 3 年目：250 万円

## 2) 褒賞事業

### 令和元年度（第12回）糖尿病療養指導鈴木万平賞

#### 【個人】

受賞者	内潟 安子（東京女子医科大学東医療センター 病院長）
推薦者	清野 裕（日本糖尿病協会 理事長）
受賞理由	若年糖尿病（ヤング糖尿病）患者の診療と研究に長年従事して日本のヤング糖尿病領域を確立し、これら患者の心身のケアを新しいジャンルの糖尿病治療として体系化して成果を上げてきた。また、全国規模では「若い糖尿病患者さんのためのグループミーティング」を継続して開催し、患者のピアカウンセリングや医療者の研修として役立つなど数多くの活動で貢献してきた。さらに、ヤング糖尿病患者への偏見を無くすために社会に働きかけ、患者の生活の質（QOL）を守る取り組みを行ってきた。1型のみならず2型のヤング糖尿病患者の治療環境の重要性を説いた功績は高く評価される。これらのヤング糖尿病患者に対する支援活動は一貫性があり、内潟氏なくしてヤング糖尿病領域は確立できなかつたと考えられ、これらの業績は本賞に値する。

#### 【個人】

受賞者	小沼 富男（順天堂大学医学部附属順天堂 東京江東高齢者医療センター 特任教授）
推薦者	綿田 裕孝（日本糖尿病学会 理事）
受賞理由	青森県において患者会を設立して糖尿病療養指導活動を広め、東北小児糖尿病サマーキャンプ等の活動を通して東北地方で多くの人材を育成した。また、順天堂大学附属病院において教育入院システムを構築し、糖尿病療養指導チームを組織化・活性化することなどにより糖尿病療養指導体制を強化した。さらに日本糖尿病療養指導士認定機構設立時から12年間に亘りCDEJの認定・育成の推進に努めた。東京東部3区では「区東部糖尿病医療連携検討委員会」を設立し当該地区における医療連携及び糖尿病療養指導活動に大いに貢献した。これまでの活動には一貫性があり、その認知度、波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。



令和元年度（第12回）鈴木万平記念糖尿病国際賞

受賞者	<p>Stephen O'Rahilly, MD</p> <p>Professor of Clinical Biochemistry and Medicine, Department of Clinical Biochemistry, University of Cambridge</p> <p>Co-Director, Wellcome-MRC Institute of Metabolic Science, Cambridge</p> <p>Director, MRC Metabolic Diseases Unit, University of Cambridge</p>
推薦者	<p>Fiona Gribble, PhD</p> <p>Professor</p> <p>Department of Clinical Biochemistry, University of Cambridge</p> <p>Wellcome-MRC Institute of Metabolic Science, Cambridge</p>
受賞理由	<p>The Selection Committee highly recognized his pioneering discoveries of the monogenic and polygenic accounts for human insulin resistance, obesity and type 2 diabetes, and of a new mechanism responding to nutritional stress, which provide novel insights into physiologic control of insulin sensitivity, carbohydrate and lipid metabolism, and energy balance, and also into diagnosis and treatment of diabetes.</p> <p>同博士は、ヒトインスリン抵抗性、肥満、2型糖尿病をひき起す単一遺伝子からポリジーンに至る遺伝子型や栄養ストレス応答の新機序を世界に先駆けて明らかにし、インスリン感受性、糖・脂質代謝、エネルギー均衡を司る生理的な仕組みと糖尿病の診断および治療への新観点を与えたと高く評価されました。</p>

### 3. 令和2年度公益目的事業

#### 1) 助成事業（公1）

令和元年度第1回理事会（令和元年6月3日）で募集要領の承認を得て、8月1日から9月30日まで4つの助成事業の募集を行った。

申請資料に基づき令和元年11月15日の選考委員会で、令和2年度助成候補（海外留学助成5名、会議・シンポジウム助成3件、調査研究助成4件）が選出された。なお、令和2年度調査研究助成については、募集要領の「原則として3件以内」を踏まえ、助成総額は変えず4件を助成候補にすることとした。

また、同委員会で中間報告に基づき、調査研究助成（令和元年度3件、平成30年度2件）の助成継続が了承された。

一方、外国人研究者招聘助成への応募はなかった。

令和2年度の海外留学助成及び、調査研究助成のうちそれぞれ1件及び、2件について、利益相反に抵触すると判断されたため、当該選考委員はそれぞれの事前評価及び審議に加わらなかった。

また、平成30年度・令和元年度調査研究助成のうち各々1件の継続可否についても、同様の対応がなされた。

海外留学助成候補者5名については、令和元年11月27日の面接選考会にて語学力を審査し全員適格と判定した。

これら助成候補は、令和元年度第2回理事会（令和元年12月9日）で審議され、選考委員会で選考結果のとおり承認された。

なお、海外留学助成決定者には助成決定証書の授与及び提出書類等の説明のために、令和2年1月20日にオリエンテーションを実施した。

その後、海外留学助成決定者のうち1名から申請の研究機関に留学できないことから、辞退届が提出された。

#### 2) 褒賞事業（公2）：第13回糖尿病療養指導鈴木万平賞

令和元年度第1回理事会（令和元年6月3日）で募集要領の承認を得て、7月16日から9月13日まで募集を行った。

推薦資料に基づき令和元年10月11日の国内褒賞審査委員会で審査を行い、受賞候補者1名を選出した。

受賞候補者は、令和元年度第2回理事会（令和元年12月9日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり承認された。

#### 3) 褒賞事業（公3）：第13回鈴木万平記念糖尿病国際賞

令和元年度第1回理事会（令和元年6月3日）で募集要領の承認を得た。

## 附 属 明 細 書

### 1) 助 成 事 業 (公 1)

海外留学助成 (令和 2 年度 5 名、うち 1 名辞退)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p style="text-align: center;">てらお しょう 寺尾 亮</p> <p>東京大学大学院 医学系研究科 外科学専攻眼科学</p> <p style="text-align: center;">【助成辞退】</p>	<p>研究課題： 脂質メディエーターによる糖尿病網膜症の病態解明と治療への応用</p> <p>研究項目： 脂質学という観点から糖尿病網膜症の病態にアプローチし、脂質メディエーターをターゲットとした新たな治療へと繋がるような研究を行う。</p> <p>研究機関： The University of Tennessee</p> <p>研究指導者： Associate Professor Nawajes Mandal</p> <p>助成期間： 自 令和 2 年 4 月 至 令和 4 年 3 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">いとう きりえ 伊藤 麻里江</p> <p>東京大学医学部 附属病院 血液浄化療法部</p>	<p>研究課題： 糖尿病性腎臓病の足細胞傷害の病態生理の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病性腎臓病において足細胞の脂質蓄積によるミトコンドリア障害が重要であるが、それ単独では細胞障害は起きない。本研究では他に嫌氣的解糖障害が重要であるとの仮説をもとに発症機序を解明するものである。</p> <p>研究機関： University of Miami</p> <p>研究指導者： Professor Alessia Fornoni</p> <p>助成期間： 自 令和 2 年 4 月 至 令和 4 年 3 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">いわさき ひろたか 岩崎 広高</p> <p>滋賀医科大学 薬理学講座</p>	<p>研究課題： 糖尿病、加齢によるサルコペニアに対する骨格筋を標的とした治療薬の開発</p> <p>研究項目： ①ヒト血清および骨格筋サンプルの解析による新規マイオカインおよび運動関連 miRNA の同定 ②新規マイオカインおよび運動関連 miRNA のマウス生体内における役割の解明</p> <p>研究機関： University of California, Los Angeles</p> <p>研究指導者： Professor Andrea Hevener</p> <p>助成期間： 自 令和 2 年 10 月 至 令和 4 年 9 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">ながの ひでかず 永野 秀和</p> <p>千葉大学大学院 医学研究院 分子病態解析学</p>	<p>研究課題： 肥満・糖尿病ーがん関連の解明を目指したミトコンドリア高次機能解析</p> <p>研究項目： 本研究は、肥満・糖尿病とその合併症であるがんとの共通の分子シグナルとして、細胞内外の代謝制御と細胞増殖・浸潤・腫瘍造成を直接的に結びつけるメカニズムをミトコンドリア超複合体の新たな分子基盤から捉えることを目的とする。</p> <p>研究機関： Columbia University</p> <p>研究指導者： Professor Carol Prives</p> <p>助成期間： 自 令和 2 年 5 月 至 令和 4 年 4 月 (2 年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
すずき るか 鈴木 路可 順天堂大学大学院 代謝内分泌内科	研究課題： オートファジー不全と膵β細胞不全をつなぐ新規遺伝子の同定とその機能解析 研究項目： 膵β細胞におけるオートファジー、小胞体（ER）ストレス 研究機関： University of California, San Francisco 研究指導者： Professor Feroz Papa 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和4年3月（2年間）

### 外国人研究者招聘助成（令和2年度 0件）

応募なし

### 会議・シンポジウム助成（令和2年度 3件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加予定人数	主催機関
第6回国際糖尿病・妊娠学会 学術集会 令和2年11月13日～15日 メルパルク京都（京都市）	岡山市立総合医療センター 顧問 ひらまつ ゆうじ 平松 祐司	400名	一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会
第48回日本膵・膵島移植研究会 令和3年3月11日～13日 ウィンクあいち（名古屋市）	藤田医科大学医学部 内分泌・代謝内科学 教授 すずき あつし 鈴木 敦詞	300名	日本膵・膵島移植研究会
第35回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 令和3年3月5日～6日 札幌市産業振興センター（札幌市）	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授 てらうち やすお 寺内 康夫	300名	日本糖尿病・肥満動物学会

調査研究助成（令和2年度 4件）

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
山口大学大学院 医学系研究科 准教授 <small>おおた やすはる</small> 太田 康晴	研究課題： ヒトにおける糖代謝の概日リズムと時計遺伝子との関連性の検討 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月（3年間） 助成金額： 1年目：170万円 2年目：170万円 3年目：160万円
千葉大学大学院 医学研究院 教授 <small>よこて こうたろう</small> 横手 幸太郎	研究課題： 肥満症に対する効果的な治療方法と合併する健康障害の改善に役立つ減量数値目標を見出すための介入研究 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月（3年間） 助成金額： 1年目：170万円 2年目：160万円 3年目：170万円
大阪大学大学院 医学系研究科 教授 <small>しもむら いいちろう</small> 下村 伊一郎	研究課題： 2型糖尿病患者における冠動脈・膵・心筋・脾への異所性脂肪蓄積の実態調査と臨床的考察 - 多施設共同研究 - 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月（3年間） 助成金額： 1年目：160万円 2年目：170万円 3年目：170万円
京都大学大学院 医学研究科 教授 <small>いながき のぶや</small> 稲垣 暢也	研究課題： 非侵襲的膵β細胞イメージング技術による1型及びインスリン依存状態糖尿病患者の病態調査 ～量的視点から～ 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月（3年間） 助成金額： 1年目：250万円 2年目：250万円 3年目：250万円

## 2) 褒賞事業(公2)

### 令和2年度(第13回)糖尿病療養指導鈴木万平賞

#### 【個人】

受賞者	おおぶ まさよ 大部 正代 (公益社団法人福岡県栄養士会 会長)
推薦者	せいの ゆたか 清野 裕 (日本糖尿病協会 理事長) しで けんいちろう 幣 憲一郎 (日本病態栄養学会 理事)
受賞理由	<p>長年に亘り管理栄養士の指導的立場で地域(福岡県)における活動や、日本病態栄養学会、日本糖尿病協会等の活動を通じて糖尿病患者の療養支援に貢献し、患者をサポートする医療者の育成にも取り組んで成果が得られ、現在も活動を継続している。</p> <p>管理栄養士としての発言力や波及効果は大きく、糖尿病療養指導の分野での管理栄養士の地位向上にもつながっている。</p> <p>糖尿病療養指導ツールである「糖尿病カンバセーション・マップ」の普及にも多大に貢献した。</p> <p>これまでの活動には一貫性があり、その認知度、波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>